

「農と食」 北の大地から

連載第 206 回

アニマルウェルフェアの啓発に取り組む
岡田千尋さんに訊く今後の方向(後編)

「この5年ほどのアニマルウェルフェア(AW)の進み方は速く、認知度が上がり、改善の傾向が見えてきた。市民の変化も肌で感じます」と、認定NPO法人アニマルライツセンター(ARC)代表理事の岡田千尋さんが語る。同会では、「2040年には国内の畜産物の消費を半減させ、残りをAW畜産からのものにする」「30年にメジャーな企業がすべて「ケージフリー」への移行にコミットする」といった具体的な目標を掲げ、実現に向けて食品企業との話し合いや、飲食店などに対する「採卵鶏のケージフリー宣言」の働きかけなどを続けている。インタビューの後編では、それらの取り組みの現況や法整備の必要性、北海道の人たちに向けたメッセージなどに耳を傾けた。

(2月2日、千葉県内で収録)



鶏は餌を餌箱から食べるよりも、地面から自分で採取したり探す方を選ぶ

▲もともと鶏や豚は地面の中から餌を採取していた動物。狭い畜舎で飼育することは、本来の習性を損なう(提供:岡田さん)

◀密飼いで短期間に太らせるブロイラーの脚の疾病(同)

いま家畜福祉に向き合うことが 生き残りの鍵となる時代が到来

動物性食品の代替を探る企業
肌で感じる市民の意識の変化

畜産業界や行政関係者の中に
は、アニマルライツセンターの活動
に対し、警戒する人もいますよ。

岡田 うちも政治家を介して(行政など)話し合いをするので、その意味でも嫌でしょうね。でも、圧力が無いと誰も何もやらず、取り残

されていくしかないのが救世主だ
と思っしてほしいですね(笑)。世界的
にはアニマルウェルフェア(AW)が

企業価値になり、競争力のひとつになっ
てきているじゃないですか。その流れに
乗ろうとするから、食品企業もうちと
話し合いをして、自分たちのビジネスに
とっても「市民団体との連携が必要だ」と
判断する時代になったのです。

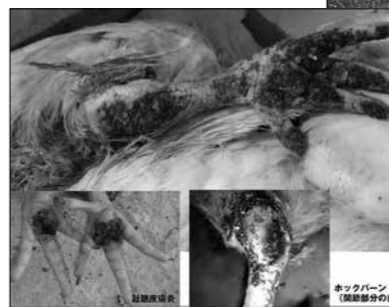
うちの会も、AWをやっているだけで
ヴィーガン(完全菜食の人)から攻撃され
ることもありますよ(笑)。

ヴィーガンなりたての人が畜産の現状を
見ると心がすぐ揺さぶられるから、し
ょうがない。現状を知り、動物たちに
していることを検証していくと解決策が
見えてくるのであって、わたしもAWに
は限界はあると思っています。

AWは、論理的には畜産の縮
小につながるが、現実には緩やかな
変化しかできない。欧州ですら。

岡田 ヨーロッパも食肉の消費量は減
っていないですからね。鶏肉は増え
続けていて、日本人よりもずっと多
く肉を消費しています。

人間の欲望をコントロールするの
はなかなか難しい。岡田 だから、代
替肉や培養肉が



ネックバーン(脚部部分の病)



鶏に餌を与える岡田さん(撮影:八雲いつか)

重要なんです。毛皮もそうでしたが、
代替するものがないと企業は移行でき
ない。ビジネスとして全員がウィン
ウィンになることであり、日本ハム
やマルハニチロも代替肉に活路を
見いだそうとしています。

最近、雪印メグミルクが豆を原料
にした代替乳でヨーグルトの製造を
始めたそうです。今後の変化を見
え、「少し手をつけておこう」とい
うことでしょうか。

岡田 酪農は個人経営が多いです
が、養豚や養鶏は企業なので現場の
人は意見も求められない立場にあ
ります。かつ人手不足なので、経営
企画や社長などが意識的にハンド
リングして、現場の人たちの職を確
保していく必要があります。社会のシ
ステムを変えようとする時、理想を
押しつけても誰もついてきません。
わたしはスタッフに対し、バランス
感覚を意識し、現実のちよっと上を
提案し続けるようお願いしています。

AWに対する消費者の受け止
め方について、どう感じますか。

岡田 AWの運動は遅れてきまし
たが、この5年ほどの進み方は速
いと評価できます。認知度は着実に上
がり、改善の傾向は見えています。19

年に平飼い卵の調査をした時、50%
のスーパーしか扱っていません。今
はほとんどどのスーパーに置いて
あり、要望するとすぐ対応してく
れます。スーパー側も「平飼いの卵
が足りない」と嘆いているので、大
きく変わってきた証拠です。市民の
草の根の力で潜在的なニーズをあ
ぶり出したわけで、企業がもっとコ
ミットしてくれると、より高いレ
ベルが上がっていくでしょう。とはい
え、豚の妊娠ストール問題は、あ
まり知られていません。こちらはES
G投資(註)の問題として、市民に見
せられる問題かと思えます。

わたしたちは市民の変化を肌で感
じるんですよ。街頭アクションをす
ると、昔は畜産のパネルを掲示し
ただけでクレームが付き、「取り下げ
ろ」とか。そうしたことはなくなり
今は渋谷で行動していると、多くの
人が「頑張ってください」と、チ
ラシを取りにきたりします。

都市部の若い世代は、環境問
題からAWに入る人が多いとか。
岡田 環境問題に携わる人たちは
お肉の消費を減らすことを考えやす
いので響きやすいと思います。でも
大学に呼ばれて話をさせてもらうと、

(おかだ・ちひろ)1978年、静岡県生まれ。成城大学を卒業後、「アニマルライツセンター」のスタッフになり、調査・キャンペーン・戦略立案などを担う。2003年に同センターの代表に就任。全国の行動ネットワークづくりや、虐待されている動物たちを救うための活動を継続中。近年は畜産動物と水産動物のアニマルウェルフェア推進を大きな柱にすえ、企業や政治家などへのロビー活動などにも注力する。千葉県在住

(註)ESG投資=「環境(Environment)」「社会(Social)」「企業統治(Governance)」の単語の頭文字を取り、持続的な成長を目指すために、この3つに配慮した経営を行なう企業に投資すること

